

# I 学習内容

ブロック5は「血液・造血器」「感染」「免疫」「皮膚」の教育を主としている。なお、「人間関係教育」、「救命救急医療」、「東洋医学」が時間割の都合上含まれている。

このブロックの対象とするものが、狭い範囲に局在する大きな臓器がないこと、したがって、外科系の関与がほとんどないことなどの共通点がある。また、血液・造血器と免疫は骨髄由来の細胞で構成される点で共通点があり、感染はそれらの破綻で起こると考えられるので密接な関係がある。感染は腫瘍と同様に各臓器でも扱われているが、ここで知識をまとめてほしい。皮膚は、疾患の多くが免疫系とのつながりが強いことや、腫瘍を対象とする血液・造血器、また感染とも接点が多いのでこのブロックに入っている。

## 【講義】

血液・造血器、感染、免疫、皮膚のそれぞれについて、組織学、生理学、生化学、免疫学、微生物学、寄生虫学、薬理学、病理学などの基礎医学、社会医学の法医学、内科学、小児科学、皮膚科学、放射線科学、形成外科学などの臨床医学まで含んだ系統的な講義を行い、この分野での生体の生理および病理を総合的、有機的に理解してもらうことを目的としている。また重要な事項あるいは先端的なことについては特別講義が組まれている。さらに人間関係教育、救命救急医療、東洋医学の講義がある。

## 【チュートリアル】

2週に1課題とし、計5課題が行われる。血液・造血器2題、感染1題、免疫1題、皮膚1題である。基本的には診療問題解決型の課題となるが、統合型を意識した課題を取り上げる予定である。人間関係教育、救命救急医療、東洋医学に関するチュートリアルは現在のところ予定されていない。

## 【実習】

従来基礎医学で行われていた実習の多くに、関連する臨床のスタッフが参加し、より充実させたものとした。この実習を通じて、将来、臨床あるいは基礎的研究に従事する際に必要な基本的な技術と考え方の習得と、講義やチュートリアルで得た知識を生きたものとすることを目指している。

血液・造血器の実習および皮膚の実習はこのブロックだけにある実習であるが、感染・免疫の実習はブロック1で行われた生体と微生物および生体の防御反応の実習の延長上にあるものである。

## II 包括的到達目標

- I 血液・造血器の正常構造と機能を説明することができる。
- 1) 骨髄、胸腺、リンパ節、脾臓、およびその他のリンパ組織の構造と機能
  - 2) 血球の産生・崩壊、形態と機能
  - 3) 止血機能
  - 4) 血漿とその成分
  - 5) 血液型と個人識別
- II 血液・造血器の異常についてその主要症候、病態生理、病因、診断、検査および治療について述べることができる。
- 1) 赤血球、白血球、血小板の異常
  - 2) リンパ球、組織球の異常
  - 3) 血漿蛋白異常
  - 4) 出血傾向
  - 5) 異型輸血
- III 感染症の現状、動向そして予防対策について説明することができる。
- 1) 主な感染症の疫学
  - 2) 感染対策と予防接種
  - 3) 感染症サーベイランス
- IV 主たる感染症についてその主要症候、病態生理、病因、診断、検査および治療について述べることができる。
- 1) 感染炎症、感染免疫
  - 2) 微生物学的検査
  - 3) ウイルス感染症
  - 4) クラミジア、マイコプラズマ、リケッチア感染症
  - 5) 細菌感染症
  - 6) 真菌感染症
  - 7) 寄生虫感染症
  - 8) 熱帯感染症
- V 免疫系組織の正常構造と機能について説明することができる。
- 1) 免疫系の一般特性
  - 2) 自己と非自己の識別
  - 3) 免疫反応の調節機構
  - 4) 疾患と免疫
- VI 免疫系に関連した疾患についてその主要症候、病態生理、病因、診断、検査および治療について述べることができる。
- 1) 膠原病および膠原病類縁疾患
  - 2) アレルギー性疾患
  - 3) 免疫不全症

- VII 皮膚の正常構造と機能について説明することができる。
- 1) 表皮
  - 2) 真皮
  - 3) 皮下組織
  - 4) 付属器
- VIII 主な皮膚疾患についてその主要症候、病態生理、病因、診断、検査および治療について述べるることができる。
- 1) 原発疹、続発疹
  - 2) 湿疹、皮膚炎群および炎症性皮膚疾患
  - 3) 水疱、膿疱性疾患
  - 4) 母斑、母斑症、色素異常症
  - 5) 皮膚良性、悪性腫瘍
  - 6) 皮膚感染症
  - 7) デルマトローム
- IX 救命救急医療についてその概念および主たる治療・処置について説明することができる。
- 1) 患者の現場処置と移送
  - 2) 心肺蘇生その他の救急処置
  - 3) 集中治療医学
  - 4) 外傷、臓器不全、ショック状態、中毒等の患者管理
- X 人間関係の重要性について理解し、良好な人間関係を築くためのルールを理解しそれに基づく患者および家族との接し方と法的問題について述べるることができる。
- 1) 医の倫理
  - 2) 医師と患者および家族との関係
  - 3) 説明業務と告知、同意
  - 4) 末期患者への態度と対応
  - 5) 植物状態、脳死
  - 6) 法的関わり
- XI 東洋医学についてその基本的思考を理解し、主要疾患の症状の漢方医学的とらえ方およびその対応、和漢薬の特徴、作用機序、副作用について述べるることができる。
- 1) 漢方、鍼灸治療の適応・不適応
  - 2) 東洋医学的病態把握
  - 3) 漢方・鍼灸治療の特徴
  - 4) 和漢薬の特徴・作用機序・副作用

### Ⅲ 到達目標

#### 目 次

血液・造血器系到達目標·····	7
感染症系到達目標·····	11
免疫系到達目標·····	15
皮膚系到達目標·····	18
東洋医学到達目標·····	25
救急医療到達目標·····	26
人間関係教育到達目標·····	28

## 血液・造血器系到達目標

[総論]

大項目	中項目	小項目	備考
I. 血液・造血器の正常構造と機能	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨髄、胸腺、リンパ節、脾臓の構造と機能</li> <li>2. 血球の産生・崩壊とその調節</li> <li>3. 赤血球の形態と機能</li> <li>4. 白血球の形態と機能</li> <li>5. 髓外造血</li> <li>6. 鉄と造血ビタミンの代謝</li> <li>7. 止血機能と血管壁、血小板、凝固・線溶系</li> <li>8. 血漿とその成分</li> </ol>		
II. 主要症候とその病態生理			
A. 血液、造血器	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧血</li> <li>2. 赤血球増加</li> <li>3. 白血球増加</li> <li>4. 白血球減少</li> <li>5. 好酸球増加</li> <li>6. 好塩基球増加</li> <li>7. 血小板増加</li> <li>8. 血小板減少</li> <li>9. 出血傾向</li> <li>10. 血栓傾向</li> <li>11. 過粘稠度 (hyperviscosity) 症候群</li> <li>12. 易感染性</li> <li>13. 免疫グロブリン異常</li> </ol>		
III. 診察、診断			
A. 全身の身体診察法と精神状態の把握	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リンパ節</li> <li>2. 肝、脾</li> </ol>		
B. 検査			
1 検体検査	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血液学検査</li> <li>2. 病理・組織学検査</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 血算 2) 止血機能 3) 造血能</li> <li>4) 溶血に関する検査 5) 血液型・輸血関連検査</li> <li>1) 細胞疹 2) 染色体検査</li> <li>3) 遺伝子検査</li> </ol>	
2 超音波検査			

大項目	中項目	小項目	備考
3 エックス線検査	1. 単純撮影		
4 エックス線 CT 検査			
5 磁気共鳴画像 (MRI) 検査			
6 核医学検査	1. シンチグラム(SPECT、PET) 2. 体外測定・試料検査	1) 動態検査 2) 摂取率 3) 吸収・排泄率 4) 血球寿命	
C. 治療			
1 治療の基礎	1. 治療に用いる機器・器材と 安全な取り扱い法	1) 無菌室	
2 薬物療法			
3 輸血療法	1. 安全性確保 2. 適応、禁忌  3. 副作用とその対策	1) 血液製剤使用適正化基準（新 鮮凍結血漿、アルブミン製 剤、赤血球濃厚液、血小板） 1) 自己血輸血	
4 血液浄化	1. 血漿交換		
5 消化管・腹部の 手術	1. 脾の手術		
6 臓器・組織移植	1. 主な移植の種類と適応 2. 提供者（donor）と被移植者 （recipient） 3. 移植と免疫	1) 骨髄 1) 自家・同種移植 2) 組織適合性 3) 拒絶反応 1) 免疫抑制 2) 無菌室治療	
7 放射線治療	1. 放射線治療の適応  2. 集学的治療	1) 根治的照射 2) 姑息的照射 3) 対症的照射 1) 手術療法との併用 2) 化学療法との併用 3) 分子標的薬剤との併用 4) 免疫療法との併用	
8 放射免疫療法	1. 適応疾患と放射性薬剤		





大 項 目	中 項 目	小 項 目
IV . 出血性疾患と 血栓傾向	6. 多発性骨髄腫	1) Bence Jones 蛋白
	7. マクログロブリン血症	
	△ 8. monoclonal gammopathy of undetermined significance (MGUS)	
	△ 9. アミロイドーシス	
	△ 10. 組織球増殖症	1) Langerhans 細胞組織球症 (histiocytosis X)
	11. 血球貪食症候群 (hemophagocytic syndrome) (hemophagocytic lymphohistiocytosis)	
	12. 自家造血幹細胞移植	
	1. 特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)	
	2. 二次性血小板減少症	
	3. 血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP)	
	△ 4. 溶血性尿毒症症候群 (HUS)	
	5. 先天性血小板機能異常症	1) Glanzmann 病、Bernard - Soulier 症候群
	6. 後天性血小板機能異常症	
	7. 血友病	
8. von Willebrand 病		
△ 9. 循環抗凝固因子による出血傾向		
10. 播種性血管内凝固症候群 (DIC)		
11. ビタミン K 欠乏症		
△ 12. 新生児出血性疾患		
△ 13. アレルギー性 (血管性) 紫斑病	1) Schönlein - Henoch 紫斑病	
14. 先天性血栓性素因		

△：卒業時までの到達目標

評価方法：筆記試験、実習レポート

## 感染症系到達目標

[総論]

大項目	中項目	小項目	備考
I. 予防と健康管理 A. 感染症対策	1. 現状と動向	1) 感染症法 (1類、2類、3類、4類、5類感染症、指定感染症、新感染症) 2) 主な感染症の疫学と流行状況 [届出を要する伝染病、検疫伝染病、国際伝染病、学校伝染病、感染症サーベイランス対象疾患、後天性免疫不全症候群 (AIDS)、B型肝炎、人畜共通感染症]	
	2. 予防対策	1) 感染源・感染経路対策 (消毒、滅菌、隔離、媒介動物駆除) 2) 主な感染症の予防、予防接種 3) 感染症サーベイランス 4) 熱帯感染症コントロール a) マラリアコントロールをモデルとして	
II. 病因、病態 A. 炎症 B. 感染	1. 局所的变化	1) 組織反応 2) 症候	
	2. 全身的变化	1) 血液の変化 2) 代謝性反応	
	3. 急性炎症と慢性炎症		
	1. 感染の概念	1) 病原微生物 2) 感染と発症 3) 感染経路 4) 感染と免疫・アレルギー	
	2. 宿主側の要因	1) 日和見感染 (opportunistic infection) 2) 二次感染、複数菌感染 3) 免疫不全症候群 4) compromised host 5) 菌交代症、菌交代現象	
	3. 垂直感染と水平感染	1) 子宮内感染、産道感染 2) TORCH 症候群、B型肝炎ウイルス感染、後天性免疫不全症候群、成人T細胞白血病	
	4. 全身感染症 (外毒性疾患を含む)	1) 菌血症 2) 敗血症 3) エンドトキシンショック 4) toxic shock syndrome 5) toxic shock like syndrome	
	5. 輸入感染症		
	6. 性(行為)感染症 (STD)		
	7. 人獣共通感染症		
8. 新興・再興感染症			
9. 院内感染	1) 術後感染		
III. 検査 A. 検体検査	1. 微生物学・寄生虫学検査	1) 染色法 2) 培養・同定法 (塗抹鏡検) 3) 抗菌薬の感受性テスト 4) 各病原体別検査 (細菌、結核菌、梅毒トレポネーマ、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマ・ウイルス、真菌、原虫、寄生虫)	

[各 論]

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I . ウイルス 感染症	1. 感冒（かぜ症候群） 2. インフルエンザ 3. アデノウイルス感染症 4. RSウイルス感染症 5. 流行性耳下腺炎（ムンプス） 6. 麻疹 7. 風疹 8. 突発性発疹 9. 急性灰白髄炎（ポリオ） 10. コクサッキーウイルス・ECHO 感染症 11. 流行性角結膜炎 12. 咽頭結膜熱 13. ウイルス性下痢症 14. 単純性ヘルペスウイルス感染症 15. 水痘、帯状疱疹 16. 伝染性紅斑 17. サイトメガロウイルス感染症 18. ウイルス性出血熱 19. ヒト乳頭腫ウイルス感染症  20. 伝染性軟属腫 21. ウイルス性肝炎 22. 後天性免疫不全症候群 23. 成人 T 細胞白血病 24. 無菌性髄膜炎 25. 日本脳炎 26. 狂犬病 27. 天然痘（痘瘡） 28. ウエスト(西)ナイルウイルス感染症 29. ハンタウイルス肺症候群 30. 重症急性呼吸器症候群（SARS）	1) Koplik 斑 1) 先天性風疹症候群  1) ヘルパンギナ、手足口病、急性出 血性結膜炎  1) ロタウイルス、ノロウイルス 1) 母子感染対策  1) 尋常性疣贅、青年性扁平疣贅、尖圭 コンジローム、先天性表皮発育異常症   1) HIV 1) HTLV - 1
II . クラミジア 感染症	1. オウム病 2. クラジミア肺炎 3. 鼠径（性病性）リンパ肉芽腫症 4. トラコーマ 5. 非淋菌性尿道炎 6. 性器クラミジア感染症	1) Chlamydia psittaci 1) Chlamydia pneumoniae 1) Chlamydia trachomatis
III . マイコプラズ マ感染症	1. マイコプラズマ肺炎	
IV . リケッチア 感染症	1. 発疹チフス 2. つつが虫病	

大 項 目	中 項 目	小 項 目
V .細菌感染症	3. 日本紅斑熱	
	4. 腺熱リケッチア症	
	5. Q 熱	
	1. 敗血症	
	2. レンサ球菌感染症	1) A・B群レンサ球菌感染症、肺炎球菌感染症
	3. ブドウ球菌感染症	1) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 2) ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群、伝染性膿痂疹
	4. 淋菌感染症	
	5. 髄膜炎菌感染症	
	6. 細菌性赤痢	
	7. サルモネラ感染症	1) 腸チフス、パラチフス
	8. ヘモフィルス感染症	1) インフルエンザ桿菌感染症
	9. 百日咳	
	10. コレラ	
	11. 大腸菌感染症	1) 腸管病原性大腸菌 a) 溶血性尿毒症症候群
	12. クレブシエラ感染症	1) 肺炎桿菌感染症
	13. セラチア感染症	
	14. エルシニア感染症	
	15. 腸炎ビブリオ感染症	
	16. カンピロバクター感染症	
	17. リステリア感染症	
	18. 猫ひっかき病	
	19. 緑膿菌感染症	
	20. 非醗酵グラム陰性桿菌感染症	
	21. レジオネラ感染症	
	22. ジフテリア	
	23. モラクセラカタラーリス感染症	
	24. ベスト	
	25. ヘリコバクター・ピロリ感染症	
	26. 炭疽	
27. 野兔病		
28. 鼻疽、類鼻疽		
29. プルセラ症		
VI .嫌気性菌感染症	1. 破傷風	
	2. ボツリヌス症	
	3. 偽膜性大腸炎	
	4. ガス壊疽	
	5. 無芽胞嫌気性菌感染症	
	6. 放線菌症	1) バクテロイデス感染症
VII .マイコバクテリア感染症	1. 結核	
	2. 非定型抗酸菌症	

大 項 目	中 項 目	小 項 目
VIII .スピロヘータ 感染症	3. Hansen 病 (らい)	
	1. 梅毒 2. ライム病 3. レプトスピラ症 (Weil 病)	
IX .真菌症	1. カンジダ症 2. クリプトコッカス症 3. アスペルギルス症	1) 口腔カンジダ症 (鷺口瘡)
	4. ムーコル症 5. ノカルジア症 6. 白癬 7. 癬風 8. スポロトリコーシス 9. 黒色真菌感染症	1) アレルギー性気管支肺アスペルギルス症
X .原虫症	1. 赤痢アメーバ症 2. マラリア 3. トキソプラズマ症 4. ニューモシスチス肺炎 5. クリプトスポリジウム症 6. ランブル鞭毛虫症 7. トリコモナス症 8. リューシュマニア感染症	
XI .線虫症	1. 鉤虫症 2. 蟻虫症 3. 糞線虫症 4. 回虫症 5. 糸状虫症 (フィラリア症) 6. アニサキス症 7. 顎口虫症 8. 幼虫移行症	
XII .吸虫症	1. 住血吸虫症 2. 肺吸虫症 3. 肝吸虫症 4. 横川吸虫症	
XIII .条虫症	1. 広節裂頭条虫症 (日本海裂頭条虫症) 2. 無鉤条虫症 3. 有鉤条虫症、有鉤囊虫症 4. 包虫症 (エキノコックス症)	

評価方法：筆記試験

## 免疫系到達目標

[総論]

大項目	中項目	小項目	備考
I .免疫	1. 免疫系の構造・機能	1) 免疫系臓器〈脊髄、胸腺、リンパ節、脾、扁桃、粘膜免疫組織〉 2) リンパ球 [T細胞 [ヘルパーT細胞〈Th1、Th2〉、細胞傷害性T細胞〈CTL〉]、B細胞、形質細胞、NK細胞] 3) 自然免疫〈好中球、好酸球、単球〉 4) 抗原提示細胞〈マイクロファージ、樹状細胞〉 5) 免疫グロブリン 6) 補体 7) サイトカイン、ケモカイン 8) 免疫応答とその調節 9) 組織適合(性)抗原〈HLA〉 10) 自己免疫 11) 免疫寛容	

[各 論]

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
I .アレルギー性疾患	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アナフィラキシー</li> <li>2. アレルギー性結膜炎</li> <li>3. 鼻アレルギー（アレルギー性鼻炎）</li> <li>4. 花粉症</li> <li>5. 蕁麻疹</li> <li>6. アトピー性皮膚炎</li> <li>7. アレルギー性接触皮膚炎</li> <li>8. 血管性浮腫</li> <li>9. 気管支喘息</li> <li>10. 肺好酸球症〈PIE 症候群〉</li> <li>11. アレルギー性気管支肺アスペルギルス症</li> <li>12. 過敏性肺（臓）炎</li> <li>13. 薬物アレルギー</li> <li>14. 食物アレルギー</li> <li>15. 血清病</li> <li>16. 昆虫アレルギー</li> <li>17. 職業性アレルギー</li> </ol>		
II .膠原病と類縁疾患	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全身性エリテマトーデス〈SLE〉</li> <li>2. 抗リン脂質抗体症候群</li> <li>3. 全身性硬化症〈強皮症〉</li> <li>4. 皮膚筋炎、多発性筋炎</li> <li>5. Sjögren 症候群</li> <li>6. 混合性結合組織病〈MCTD〉</li> <li>7. 結節性多発動脈炎</li> <li>8. 側頭動脈炎</li> <li>9. リウマチ性多発筋痛症</li> <li>10. 大動脈炎症候群〈高安動脈炎〉</li> <li>11. 過敏性血管炎</li> <li>12. Schönlein - Henoch 紫斑病</li> <li>13. クリオグロブリン血症</li> <li>14. リウマチ熱</li> <li>15. 関節リウマチ</li> <li>16. 悪性関節リウマチ</li> <li>17. 成人 Still 病</li> <li>18. 若年性特発性関節炎〈JIA〉、若年性関節リウマチ</li> </ol>		

大項目	中項目	小項目	備考
Ⅲ. 原発性・続発性免疫不全症	19. 強直性脊椎炎 20. 反応性関節炎〈Reiter 症候群〉 21. サルコイドーシス 22. Behçet 病 23. Weber-Christian 病 24. 川崎病〈小児急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群〉 25. Goodpasture 症候群 26. 再発性多発軟骨炎 27. Felty 症候群 28. 線維筋痛症 29. 乾癬性関節炎、掌蹠膿疱症性関節炎 30. 痛風、偽痛風 31. ANCA 関連血管炎〈顕微鏡的多発動脈炎、アレルギー性肉芽腫性血管炎、Wegener 肉芽腫症〉 32. 慢性疲労症候群 1. 無ガンマグロブリン血症 2. 選択的 IgA 欠乏症 3. 胸腺低形成 4. 重症複合免疫不全症 5. 慢性肉芽腫症 6. 白血球粘着異常症 7. Chédiak-Higashi 症候群 8. Wiskott-Aldrich 症候群 9. 毛細血管拡張性失調症〈Louis-Bar 症候群〉 10. 高 IgE 症候群 11. 原発性補体欠乏症 12. 後天性免疫不全症候群〈AIDS〉 13. 感染による免疫不全症 14. 悪性腫瘍による免疫不全症 15. 自己免疫疾患による免疫不全症 16. 医原性免疫不全症		DiGeorge 症候群

評価方法：筆記試験



## 皮膚系到達目標

[総論]

大項目	中項目	小項目	備考
I .皮膚の構造	1. 表皮	1) 角質層 2) 淡明層 3) 顆粒層 4) 有棘層 5) 基底層 6) ケラチノサイト 7) メラノサイト 8) Langerhans 細胞 9) Merkel 細胞	
	2. 真皮	1) 乳頭層 2) 網状層 3) 感覚神経終末 (Meissner 触覚小体) 4) 膠原線維 5) 弾性線維	
	3. 皮下組織	1) 脂肪層 2) 感覚神経終末 (Vater-Pacini 小体)	
	4. 毛	1) 毛幹 2) 毛根 3) 毛球 4) 毛乳頭 5) 毛髓質 6) 毛皮 7) 毛小皮 8) 毛包 9) 立毛筋 10) 毛周期	
	5. 爪	1) 爪板 2) 爪床 3) 爪母基	
	6. 皮膚腺	1) 汗腺 ①エクリン腺 ②アポクリン腺 2) 脂腺 ③毛脂腺 ④独立脂腺	
II .主要症候	1. 原発疹	1) 紅斑 2) 紫斑 3) 色素斑 4) 丘疹 5) 結節 6) 水疱 7) 膿疱 8) 囊腫 9) 膨疹 (蕁麻疹) 10) 毛細血管拡張	
	2. 続発疹	1) びらん 2) 潰瘍 3) 鱗屑 4) 痂皮 5) 癬痕 6) 苔癬 7) 苔癬化 8) 疱疹 9) 面皰 10) 紅皮症 11) 多形皮膚萎縮症	
III .病理	1. 表皮	1) 過角化 2) 不全角化 3) 表皮肥厚 4) 海綿状態 5) 棘融解 6) 液状変性 7) 表皮内水疱	
	2. 真皮	1) 表皮下水疱 2) 細胞浸潤 3) 血管炎 4) フィブリノイド変性 5) 膠原線維増生	
	3. 皮下組織	1) 脂肪織炎 2) 筋膜炎	

大項目	中項目	小項目	備考
IV .診断・検査	1. 診断法	1) 硝子圧法 2) Dermographism(皮膚描記法) 3) 真菌直接鏡検 4) Nikolsky 現象 5) Auspitz 現象 6) Köbner 現象 7) Darier 徴候 8) ダーモスコピー 9) 針反応	
	2. 検査法	1) パッチテスト 2) 光パッチテスト 3) 皮内テスト 4) スクラッチテスト 5) プリックテスト 6) MED 測定 7) 蛍光抗体法	
V .治療	1. 薬物療法	1) ステロイド外用剤 a) ランク別 b) 副作用 2) 抗ヒスタミン剤 抗アレルギー剤 3) 抗真菌剤 4) 抗ウイルス剤 5) Etretinate 6) 免疫調整外用剤 7) ビタミン D <sub>3</sub> 外用剤 8) 生物製剤	
	2. 手術療法	1) 植皮 2) 冷凍療法	
	3. 光線療法	1) PUVA 治療 2) レーザー 3) narrow band UVB	

[各 論]

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I . 炎症性疾患	1. 湿疹・皮膚炎群  2. 蕁麻疹  3. 紅斑症  4. 紫斑  5. 血行障害	1) 接触皮膚炎 2) アトピー性皮膚炎 3) 脂漏性皮膚炎 4) 主婦湿疹 5) 貨幣状湿疹 6) 自家感作性皮膚炎 7) 紅皮症 8) 痒疹 9) 皮脂欠乏性湿疹 a) 皮膚瘙癢症 1) 急性蕁麻疹 2) 慢性蕁麻疹 3) 物理的蕁麻疹 4) 血管神経性浮腫 1) 多型滲出性紅斑 2) 粘膜・皮膚・眼症候群 (Stevens - Johnson 症候群) 3) Sweet 病 4) 結節性紅斑 5) 硬結性紅斑 6) 環状紅斑 a) ライム病 1) アナフィラクトイド紫斑 (Schönlein - Henoch 紫斑病) 2) 老人性紫斑 3) 慢性色素性紫斑 1) 網状皮斑 (livedo) 2) Raynaud 症候群 3) うっ滞性皮膚炎 4) Buerger 病
II . 膠原病		1) 全身性エリテマトーデス a) 円盤状エリテマトーデス 2) 全身性強皮症 a) 限局性強皮症 3) 皮膚筋炎 4) Overlap 症候群 5) MCTD 6) Sjögren 症候群 7) 結節性多発動脈炎 8) 膠原病近縁疾患 a) 壞疽性膿皮症

大 項 目	中 項 目	小 項 目
III .肉芽腫症		b) Beçhet 病 c) Weber - Christian 病  1) サルコイドーシス 2) 環状肉芽腫 3) 顔面播種状粟粒性狼瘡
IV .光線性皮膚 障害	1. 光線過敏症	1) 日光皮膚炎 2) 光接触皮膚炎 3) 光過敏性蕁疹 4) 多形日光疹 5) 日光蕁麻疹 6) 種痘様水疱症 7) 色素性乾皮症
V .物理的皮膚 障害		1) 放射線皮膚炎 2) 熱傷 3) 凍傷 4) 凍瘡 5) 褥瘡 6) 化学熱傷
VI .薬剤性皮膚 障害	1. 薬疹	1) 皮疹型 a) 播種状紅斑丘疹型 b) 多型紅斑型 c) TEN 型 d) 固定疹型 e) 扁平苔癬型 f) 薬剤性過敏症症候群
VII .水疱症・膿疱症	1. 自己免疫性水疱症  2. 非自己免疫性水疱症  3. 膿疱症	1) 天疱瘡 2) 水疱性類天疱瘡 3) 疱疹状皮膚炎 1) 家族性良性慢性天疱瘡 2) 先天性表皮水疱症 1) 掌蹠膿疱症 2) 膿疱性乾癬
VIII .角化症		1) 魚鱗癬 2) Darier 病 3) 汗孔角化症 4) 乾癬

大項目	中項目	小項目
IX .形成・色素異常症	1. 形成・代謝異常  2. 色素異常症  3. 母斑  4. 神経・皮膚症候群（母斑症）	5) 類乾癬 6) 扁平苔癬 7) Gibert ばら色秕糠疹 8) 黒色表皮腫  1) 線状皮膚萎縮症 2) 弾力線維性仮性黄色腫 3) Werner 症候群 4) アミロイドーシス 5) 黄色腫 6) 亜鉛欠乏症候群（腸性肢端皮膚炎） 1) 尋常性白斑 2) 先天性白皮症 3) 遺伝性対側性色素異常症 1) 表皮母斑 2) 母斑細胞母斑 3) 脂腺母斑 4) 扁平母斑 5) 太田母斑 6) 単純性血管腫（ポートワイン母斑） 7) 莓状血管腫 8) Kasabach - Merritt 症候群 9) 海綿状血管腫 10) リンパ管腫 1) Bourneville - Pringle 母斑症（結節性硬化症） 2) von Recklinghausen 病、NF1（神経線維腫症） 3) 神経皮膚黒色症 4) 色素失調症（Bloch - Sulzberger 症候群） 5) Sturge - Weber 症候群
X .腫瘍	1. 上皮性良性腫瘍  2. 上皮性悪性腫瘍	1) 脂漏性角化症（老人性疣贅） 2) 粉瘤 3) 汗管腫 4) ケラトアカントーマ 1) 光線性角化症 2) 乳房・乳房外 Paget 病 3) Bowen 病 4) 白板症

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	3. メラノサイト系腫瘍 4. 間葉系皮膚腫瘍	5) 有棘細胞癌 6) 基底細胞上皮腫（癌） 1) 悪性黒色腫 1) 皮膚線維腫 2) 隆起性皮膚線維肉腫 3) 悪性線維性組織球腫 4) ケロイド 5) 毛細血管拡張性肉芽腫 6) 肥満細胞腫 7) 悪性血管内皮細胞腫 8) Langerhans 細胞組織球症 9) 皮膚 T 細胞リンパ腫 10) Hodgkin 病 11) 成人 T 細胞白血病
XI .付属器疾患	1. 汗腺疾患  2. 脂腺疾患  3. 毛髪疾患  4. 爪疾患	1) 汗疹 2) 汗疱 3) 臭汗症 1) 尋常性痤瘡 2) 酒皰 3) 酒皰様皮膚炎（口囲皮膚炎） 1) 円形脱毛症 2) 壮年性脱毛 3) 多毛症 4) 抜毛癖 1) 爪甲剥離症 2) 時計皿爪 3) 匙形爪甲 4) 爪甲色調異常 5) 爪囲炎 6) 陥入爪
XII .感染症	1. ウイルス感染症	1) 単純ヘルペス a) カポジ水痘様発疹症 2) 水痘 3) 帯状疱疹 4) ヒト乳頭腫ウイルス感染症 5) 伝染性軟属腫 6) 手足口病 7) 風疹 8) Gianotti 病・Gianotti 症候群

大 項 目	中 項 目	小 項 目
XIII . 全身と皮膚	2. 細菌感染症	9) 伝染性単核症 10) 伝染性紅斑 1) 膿皮症 2) 伝染性膿痂疹 3) ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群 (SSSS) 4) 丹毒 5) 蜂窩織炎 6) 壊死性筋膜炎 7) 皮膚結核 8) Hansen 病
	3. 真菌感染症	9) 非結核性抗酸菌症 1) 白癬 2) カンジダ症 3) 癩風
	4. 動物性皮膚疾患	4) スポロトリコーシス 1) 皮膚顎口虫症 2) 疥癬 3) しらみ症 4) 線状皮膚炎 5) 毒蛾皮膚炎 6) つつが虫病
	5. 性行為感染症	1) 梅毒 2) 軟性下疳 3) 鼠径リンパ肉芽腫 4) 後天性免疫不全症候群 5) 性器ヘルペス
		1) 皮膚症状 a) 内臓悪性腫瘍 b) 糖尿病 c) 消化器疾患 d) 肝疾患 e) 内分泌疾患 f) ビタミン欠乏症・過剰症 g) 腎疾患 h) 妊娠

評価方法：

- ・ MC による筆記試験
- ・ 組織像を写生したレポートによる実習の評価

## 東洋医学系到達目標

[総論]

大項目	中項目	小項目	備考
I .医療のあり方	1. 漢方医学の現状と展望 2. 漢方医学の歴史	1) 傷寒論 2) 金匱要略 3) 素問 4) 靈樞 5) 神農本草経	
II .病理	1. 漢方医学の病理感	1) 陰陽 2) 虚実 3) 気血水 4) 五臓	
III .診察	1. 東洋医学的診察法	1) 四診 a) 望診 (舌診を含む) b) 聞診 c) 問診 d) 切診 (脈診・腹診)	
IV .治療	1. 治療の種類  2. 患者による治療法の差異	1) 湯液治療 2) 鍼灸治療 1) 多愁訴患者 2) 虚弱体質患者 3) 高齢者 4) 疼痛患者 5) 凝りを訴える患者 6) 冷えを訴える患者	
V .和漢薬		1) 特徴 2) 作用 3) 副作用 4) 研究の方法論と現況	

評価方法：筆記試験



## 救命救急医療到達目標

[総論]

大項目	中項目	小項目	備考
I .救急治療、 処置	1. 救急医療の概念	1) 救急医療 2) 集中治療 3) 救急医療に関わる法的問題	法医学
	2. 心肺蘇生	1) 気道確保 2) 気道内異物 3) 人工呼吸 4) 心停止とその処置 5) 静脈確保 6) 除細動 7) 酸素療法 8) 脳蘇生 9) 薬物 10) 急性血液浄化法	
	3. 疾患別の救急治療・処置		
	4. 急性中毒の治療・処置		
	5. 症状別の救急処置	1) 意識障害 2) ショック 3) 呼吸困難 4) 食道・気道異物 5) 急性腹症 6) 吐下血 7) 嘔吐 8) 下痢 9) 咬傷、他 10) 誤飲、誤嚥	
II .損傷の治療、 処置	1. 多発外傷の治療、管理の基礎		
III .重症患者の 管理の基礎	1. ショック、出血、凝固・線溶 系異常	1) ショック 2) 敗血症 3) MOF 4) DIC	
IV .臓器不全			
V .中毒	1. 発生要因 2. 病態生理		

[各 論]

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I . 損傷	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 胸部外傷 flail chest</li> <li>2. 気管・気管支異物</li> <li>3. 機械的窒息</li> <li>4. 腹部外傷</li> <li>5. 四肢・骨盤外傷</li> </ol>	1) 消化管、肝、脾、他
II . 物理的原因による疾患	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 低温、高温環境による疾患</li> <li>2. 事故による障害</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 熱中症、異常低温による障害</li> <li>1) 誤嚥、溺水、墜落</li> </ol>
III . 薬物中毒	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 睡眠薬・向精神薬</li> <li>2. 麻薬</li> <li>3. 覚醒剤</li> </ol>	
IV . その他の中毒	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 金属中毒</li> <li>2. ガス中毒</li> <li>3. 有機溶剤中毒</li> <li>4. 有機化合物中毒</li> <li>5. 無機化合物中毒</li> <li>6. 農薬中毒</li> <li>7. 酸・アルカリ中毒</li> <li>8. 家庭用品による中毒</li> </ol>	
V . 臓器障害	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性腎不全</li> <li>2. 急性肝不全</li> <li>3. ARDS</li> <li>4. 脳死と植物状態</li> <li>5. 凝固・線溶異常</li> </ol>	
VI . 災害医療	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害医療</li> <li>2. トリアージ</li> </ol>	

評価方法：筆記試験

## 人間関係教育到達目標

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I .医の倫理	1. 医の倫理と医師の義務	1) 基本的人権の尊重 2) 医の倫理に関する規定 3) 法による医師の義務
	2. 医師と患者および家族との関係	1) 対話と理解 2) インフォームド・コンセント (informed consent) 3) 守秘義務 4) 医事訴訟
	3. 末期患者への対応 (ターミナルケア)	1) 身体的苦痛の除去 2) 精神的・社会的苦痛の除去 3) ホスピス 4) 小児の特殊性
II .EBM と NBM	1. EBM の問題点と、その補完法としての NBM	1) NBM の実際 2) NBM の評価

評価方法：出席を前提とし、各講義・WS・実習における小テスト、提出物、自己診断カードなどを総合して評価する。